

10月

渡島信用金庫、札幌に支店開設—地方信用金庫の札幌進出 岩堀 洋士

2010年10月12日、道南渡島管内森町に本店を構える渡島信用金庫が、札幌駅前通りに面する北2条に札幌支店を開設した。渡島桧山地区に本店を構える3信金（渡島・函館・江差）では初の札幌営業店開設である。渡島信金札幌支店は支店内に「北海道情報発信プラザ」を設け、道南の特産品を展示・販売する「アンテナショップ」の機能も果たすことで話題を集めた。

この渡島信金の札幌進出を含め近年、札幌市とは比較的距離の離れた地区に本店を構える信用金庫の「札幌支店新設・増設」が相次いでいる。2007年8月、日高信金（本店浦河町）が札幌支店を新設して「14年ぶりとなる地方信金の札幌進出」と注目を集めた。そして昨年6月には北星信金（同名寄市）が札幌支店を開設したのに続き、今年8月には北空知信金（同深川市）が札幌に進出、支店を開設した。北海道内における地方信用金庫の札幌市への進出状況はく表1>に見る通りであり、1960年代後半以来の多さに達している。また、既進出信金の間でも札幌市内店舗の増設が行われる（空知・稚内・遠軽格店舗）と同時に、統廃合を行う信金（北海・小樽・北門）も現れている。

〈図1〉 札幌駅前通の渡島信用金庫札幌支店 （2010年12月）



〈表1〉 道内信用金庫の札幌市内店舗数

	金庫名	本店所在地	札幌市内 店舗開設年	2006.03末 札幌市内店舗数	2010.10末 札幌市内店舗数	4年間の増減
1	札幌	札幌市	—	23	23	0
2	小樽	小樽市	1966	5	4	-1
3	北海	余市町	1967	15	14	-1
4	空知	岩見沢市	1967	7	8	1
5	苫小牧	苫小牧市	1968	2	2	0
6	北門	滝川市	1968	10	8	-2
7	室蘭	室蘭市	1972	2	2	0
8	旭川	旭川市	1974	5	5	0
9	留萌	留萌市	1990	3	3	0
10	遠軽	遠軽町	1992	3	4	1
11	稚内	稚内市	1993	2	3	1
12	日高	浦河町	2007		1	1
13	北星	名寄市	2009		1	1
14	北空知	深川市	2010		1	1
15	渡島	森町	2010		1	1
合計（括弧内は札幌信金を除く数値）				77（54）	80（57）	増7，減4

出所) 各信用金庫のディスクロージャー誌より作成。

こうした状況は日銀札幌支店も注目するところとなり、2010年9月「最近の道内信金の札幌進出について」と題する北海道金融経済レポートを発表した。同レポートは、今般の札幌市への進出状況は1970年代の第1次、1990年代の第2次に次ぐ、3回目の出店・進出ブーム（「道内信金が2年以上間隔を空けずに、5年以上に亘って札幌市内に新規出店した場合」を出店・進出ブームと定義）であり、その目的は「貸出基盤・ボリューム増強面よりも、預金基盤・ボリューム増強面にウェイトが置かれている」と指摘している。

近年札幌に進出した4信金の預貸金状況は〈表2〉の通りで、各信金とも預金・貸出金とも中位以下に位置し「小さな金融機関」である。しかし、預貸率で見ると大きな格差が存在し、特に渡島信金は道内信金の平均値（49.8%）を大きく上回り、札幌信金（67.5%）に次ぐ位置にある。「小ささ」は必ずしも「地域金融機関」「地域密着協同組織金融機関」としての「重要性・存在意義」をそのまま示すものではない。本小論では、渡島松山地区の資金動向と照らし合わせながら、渡島信金の札幌進出の意義を考えてみたい。

(表2) 4 信金の預金・貸出金状況 (2010年3月末)

	預金高		貸出金高		預貸率	
	順位	金額(百万円)	順位	金額(百万円)	順位	%
渡島	21	117,462	17	77,538	2	66.0
北空知	23	88,467	23	40,484	17	45.8
北星	14	218,022	16	83,897	22	38.5
日高	22	97,151	22	50,739	10	52.2

出所) 金融庁「中小・地域金融機関の主な経営指標」より作成。

北海道財務局函館財務事務所発表の数値によれば、2010年3月末の時点で、管内(渡島桧山地区)の銀行・信用金庫合計の預金は13,902億円、貸出金は9130億円で、そのうち銀行が預金の73%、貸出金の75%を占め、銀行が圧倒的優位の状況にある。また2006年3月末の数値(『北海道金融月報』)ではあるが、渡島桧山地区で函館市が占める割合は預金で70%、貸出金で79%と函館市が圧倒的位置にあり、しかも函館市では銀行が預金、貸出金ともほぼ9割を掌握している。その点では渡島桧山地区の「銀行」とは「函館市の銀行」と言ってもよく、信用金庫はその牙城を崩せないでいる。逆に函館市以外では、信用金庫が預金の64%、貸出金の71%を占めている。

このような函館市(の銀行)に資金需給が集中する渡島桧山地区であればこそ、渡島信金は「小さな金融機関」に止まらざるをえなかったのであろう。ただ、そうしたなかで「預貸率66%」を保っているということは、確固たる顧客をつかみ、「地域内資金循環」に極力努めていることの現れであろう。このことは業種別貸出金構成から窺える。「製造業」への融資が25%前後と高い比率を保っている。全国信金の平均は11%、道内信金の平均が数%という事情を考慮すると、その高さは注目に値する。

渡島信金が札幌支店開設に合わせ、道南の食品加工業者などを「南北海道地産物流協同組合」(道南特産品のPR、販売)に組織化できたのは、そうした基盤があったからそのことであろう。札幌支店開設に先行した日高信金、北空知信金は支店内に地域の特産品紹介コーナーを設けたが、渡島信金はこれを更に一歩進め、地域の企業と共にアンテナショップを開いた。これは、小さな金融機関・信用金庫が「協同組織金融機関」として「地域」と共に歩む一つのあり方として評価したい。

地域経済の疲弊、信金経営の基盤弱体化が叫ばれて久しく、地域振興・活性化策も試行錯誤が続いている。北海道における札幌市の位置は、<表3>にみる通り、特別のものがある。北海道経済・金融の「札幌一極集中」の良し悪しはともかくとして、現実はこの

ような状況にある。札幌一極集中が進むなかで、札幌を単純に「資産運用場所」あるいは「資金調達場所」とするのではなく、その札幌を拠り所としつつ地域振興を図る「地方信金の札幌進出」を、「協同組織金融機関」の性格・存在意義との兼ね合いで、注目していきたい。

〔表3〕 「北海道」における「札幌市」の位置

(1) 人口・商業

	人口 (千人)			年間商品販売額 (億円)					
	北海道		札幌市	北海道		札幌市		札幌市の比重	
	卸売	小売業	札幌市の比重 (%)	卸売	小売業	卸売	小売業	卸売	小売業
1999	5,689	1,812	31.9	151,827	71,173	89,488	24,060	58.9	33.8
2004	5,650	1,873	33.1	131,629	65,652	77,039	23,226	58.5	35.4
2007	5,570	1,894	34.0	116,628	61,565	66,664	21,335	57.2	34.7

出所) 北海道は『北海道統計書』, 札幌市は『札幌市統計書』より。

(2) 金融 (億円)

(年末)	北海道				札幌市				札幌市の比重 (%)			
	銀行		信用金庫		銀行		信用金庫		銀行		信用金庫	
	預金	貸出金	預金	貸出金	預金	貸出金	預金	貸出金	預金	貸出金	預金	貸出金
2000	123,005	93,023	55,539	30,292	70,183	59,085	5,862	5,376	57.1	63.5	10.6	17.7
2005	124,059	87,495	59,695	30,594	72,515	55,768	6,584	6,465	58.5	63.7	11.0	21.1
2008	130,045	89,881	62,558	31,384	76,520	58,477	6,889	6,792	58.8	65.1	11.0	21.6

出所) 2005年までは、北海道財務局『北海道金融月報』, 2008年については「北海道」の「銀行」は日本銀行「都道府県別預金・貸出金」, 同「信用金庫」は信金中央金庫「信用金庫統計」, 「札幌市」の銀行・信用金庫は『札幌市統計書』。

〔図2〕 「南北海道情報発信プラザ」にて  
佐藤広子支店長等 (2010年12月)



(追記)

2010年12月渡島信用金庫札幌支店・アンテナショップ訪問の折、伊藤新吉理事長、佐藤広子支店長より写真撮影の許可をいただくと同時に、支店開設に至る経緯等をお聞きすることができた。感謝申し上げる。

〔参照資料〕

『北海道新聞』，『日本経済新聞』「北海道経済」面の関連記事  
日本銀行札幌支店・北海道金融経済レポート「最近の道内信金の札幌進出について」  
(2010年9月)  
北海道財務局『北海道金融月報』，函館財務事務所『管内預金・貸出金動向』  
金融庁「中小・地域金融機関の主な経営指標」  
信金中央金庫総合研究所「信用金庫統計」  
各信用金庫ディスクロージャー誌  
ほか。

## 11月 ロシア大統領、「北方領土」訪問の歴史的背景 川上 淳

はじめに

2010年11月1日、ロシアのメドベージェフ大統領が政府専用機で「北方領土」国後島を訪問した。旧ソ連・ロシアを通じて、国家元首が「北方領土」を訪問したのは初めてのことである。大統領は、島内のメンデレーエフ空港から地熱発電所まで、自ら4輪駆動車を運転して視察し、古釜布（ユジノクリリスク）の水産加工会社や幼稚園を訪問した。インタファックス通信によると、大統領は「（ロシア人の）住民が島にとどまり、中央ロシアと同様に生活できるようにする」と述べ、「北方領土」の実効支配を強化する意向を示唆したという。日本政府は同日、ロシアのペルイ駐日大使を外務省に呼び抗議した。

その後、横浜でのアジア太平洋経済協力会議（APEC）での日ロ首脳会談では、菅首相がメドベージェフ大統領に「北方領土」訪問を抗議すると、大統領は「国内の視察だ」と反論したと報道されている。ロシアの強硬姿勢の背景には、日本側が四島の日本帰属確認を最優先する原則を崩さないの、ロシアとしては打開の糸口が見つからず、これ以上進展させることは難しいとの認識に立ち、領土問題を棚上げし経済協力を優先させようとい